

おしゃかさま

絵・加藤 義明
文・森下 等



ひがしほんがんじ

夏も

冬も

インドの北の高い山には
まつ白な雪が つもっています。

その 山のふもとに

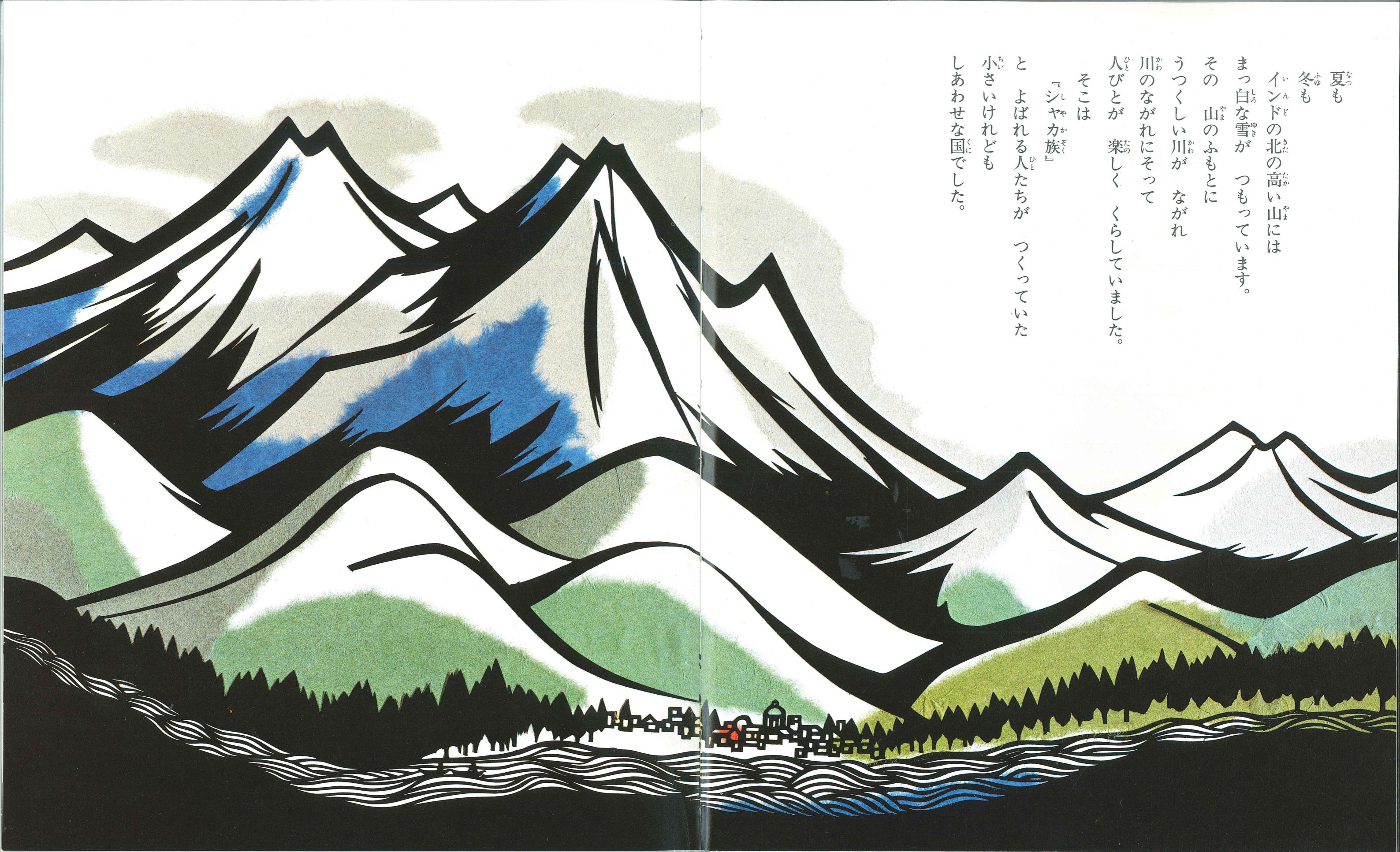
うつくしい川が ながれ
川のながれにそつて

人びとが 楽しく くらしていました。

そこは

『シヤカ族』

と よばれる人たちが つくっていた
小さいけれども
しあわせな国でした。





いまから 二千五百年ほど前の
四月八日

太子さまがお生まれになりました。

太子さまは 生まれるとすぐ
七歩 歩かれ 右手で天を指さし
左手で地を指さして

「天上天下唯我獨尊」（このよに
生まれて 一番とうとい人になる）
と 声たからかにいわれました。

後にせかいの人たちから
『ほとけさま』と

おがまれるようになつた

『おしゃかさま』

